

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：52501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12927

研究課題名(和文)新聞制作を通じたCEFR A1/A2レベルにおけるドイツ語表現力向上の取り組み

研究課題名(英文) Making of a Newspaper: Advancing German Language Expression Usage for CEFR A1 and A2 Level Students

研究代表者

柴田 育子 (SHIBATA, Ikuko)

木更津工業高等専門学校・人文学系・教授

研究者番号：90300540

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、国際的なネットワークPASCH-Globalと連携した新聞制作を通じて、重点項目である以下の5点について研究成果をあげることができた。

(1)ドイツ語新聞JAPAN HEUTEの継続的な発行(年間3回)。(2)新聞記事のオンライン化によるデータベースの確立。(3)表現力向上のためのアクティブ・ラーニングの場としてのワークショップの定期的な開催。(4)ドイツ語新聞の国際ネットワークを活用した国際交流プロジェクトの実施(セルビア、インドネシア、ポーランド、中国、韓国)。(5)新聞執筆者同士の相互ネットワーク、および卒業後も自律的にドイツ語を学ぶ「コミュニティ・ドイツ語」の場の構築。

研究成果の概要(英文)：This study has focused on Japanese students studying the German language who are at the A1/ A2 CEFR level of language acquisition. By utilizing the international PASCH-Global network, students have written articles for a newspaper.

This project has five important aspects. They are as follows: (1) Publication of a German language newspaper "Japan Heute" three times each year. (2) Placement of students' articles on-line to establish a database. (3) Promotion of active learning through regularly scheduled workshops for the students. (4) Utilization of an international network of German newspapers and incorporation of an international project. (Countries involved include Serbia, Indonesia, Poland, China, and Korea.) (5) Establishment of a mutual network, "German Language Community", for participants as well as program graduates who want to continue their German language acquisition.

研究分野：ドイツ語教育

キーワード：ドイツ語新聞 PASCH ピア・ラーニング 学習者ネットワーク ドイツ語ワークショップ

1. 研究開始当初の背景

日本の PASCH 校*によるドイツ語新聞 *JAPAN HEUTE* は、2011 年 9 月に創刊された。この新聞は、ドイツ語と日本語で書かれる国内版の他、PASCH-Global

(<http://blog.pasch-net.de/pasch-global/>)を通じて、記事は世界中に発信されている。

記事執筆者である PASCH 校生たちは、学習歴 1~2 年、CEFR A1/A2 レベルのドイツ語学習者である。彼らは、編集者(ドイツ語教員)と共に何度も原稿を校正し、ドイツ語力を向上させながら記事を完成させてゆく。

本研究代表者は、創刊当初から、このドイツ語新聞制作に関わり、「A1/A2 レベルでのドイツ語表現の可能性」について考察してきた。そして、国内外での学会発表・ドイツ語教員交流を通じて、*JAPAN HEUTE* の取り組みが、年 3 回という定期的な発行、PASCH を通じた国際的なネットワークを活用するという点において、日本のみならず国際的に見てもこれまでに全く例を見ない先進的な取り組みであることを確信できた。以上が本研究を進めるに至った背景である。

* PASCH 校プログラム(Schulen: Partner der Zukunft URL: <http://www.pasch-net.de/>)とは、ドイツ外務省のイニシアチブで 2008 年にはじまった国際交流プロジェクトで、世界中の PASCH 認定校約 1000 校をネットワークでつなぎ、ドイツ語やドイツについての関心を引き起こすことを目的とし、さまざまな国際交流プログラムを実施している。日本の PASCH 認定校は、加盟順に、木更津工業高等専門学校、獨協中学校・高等学校、早稲田大学高等学院、都立北園高等学校の 4 校である。

2. 研究の目的

2011 年 9 月に創刊された「PASCH 校ドイツ語新聞」*JAPAN HEUTE* の制作において明らかになった「CEFR A1/A2 レベルの日本語を母語とするドイツ語学習者」が抱えているドイツ語表現の問題点を踏まえ、国際的なネットワーク PASCH-Global と連携した新聞制作を通じて、彼らのドイツ語表現力を向上させる。

記事執筆者が、卒業によって次々と入れ替わるのが「学校新聞」の宿命であるが、「学習者ネットワーク」とそれを引き継ぐ「同窓会ネットワーク」、「国際交流オンラインルーム」を構築することによって、継続的ドイツ語学習を可能とし、生涯学習としてのドイツ語学習を可能とする「コミュニティ・ドイツ語」の場を作ることを、本研究の目的とする。

3. 研究の方法

2011 年 9 月以降の PASCH 校ドイツ語新聞制作を通じて、CEFR A1/A2 レベルの日本語

を母語とする記事執筆者が、ドイツ語で文章を書く際に抱えている問題点が明らかになった。本研究では、CEFR A1/A2 レベルの記事執筆者のドイツ語表現力を向上させるために、以下の三つの点に重点を置いて、研究を行った。

(1)ドイツ語表現力向上のためのアクティヴ・ラーニングの場としてワークショップの開催。

(2)ドイツ語新聞制作を通じた国際交流のネットワークを活用した、ドイツ語表現力の向上。

(3)新聞記事のオンライン化と執筆者の相互ネットワークを構築し、自律的にドイツ語を学ぶ「コミュニティ・ドイツ語」の場の構築。

4. 研究成果

本研究では、「CEFR A1/A2 レベルの日本語を母語とするドイツ語学習者」が抱えているドイツ語表現の問題点を踏まえ、国際的なネットワーク PASCH-Global と連携した新聞制作を通じてドイツ語表現力を向上させるという本研究の目的に照らして、さまざまな試みをしなが、研究を進めた。

その結果、研究の重点項目である以下の 5 点について研究成果をあげることができた。

(1)ドイツ語新聞 *JAPAN HEUTE* の発行(年間 3 回)。

(2)新聞記事のオンライン化によるデータベースの確立。

(3)表現力向上のためのアクティヴ・ラーニングの場としてのワークショップの定期的開催。

(4)ドイツ語新聞の国際ネットワークを活用した国際交流プロジェクトの実施(セルビア、インドネシア、ポーランド、中国、韓国)。

(5)新聞執筆者同士の相互ネットワーク、および卒業後も自律的にドイツ語を学ぶ「コミュニティ・ドイツ語」の場の構築。

また、本研究の研究成果について、高専ドイツ語研究会、高等学校ドイツ語研究会、ドイツ語教員連盟世界大会(IDT)で研究発表を行った。

上記の 5 つの研究成果項目の中でも、(4)ドイツ語新聞の国際ネットワークを活用した国際交流プロジェクトの実施、において特に研究成果をあげることができた。

セルビアのパンチェヴォの PASCH 校ウロシュ・プレディッチ・ギムナジウムとの間では、2015 年以降、毎年交流を継続し、これまで 3 回の相互ワークショップを開催した。更に、パンチェヴォ機械工科学学校との間で、2016 年 12 月に新たに連携交流協定を結び、英語・ドイツ語の複言語での交流プログラムを立ち上げた。

2016 年 4 月には、*JAPAN HEUTE* の活動が評価され、ベルリンで開催されたドイツ外務

省主催フォーラム「Welt-Klasse! 学校・教育・未来」に PASCH 校新聞編集チームとして招待され、世界各国のドイツ語新聞の制作状況について、詳細に知る機会を得た。

2016年8月には、ドイツ語新聞として先進的な試みを行っている SANtastisch

(<http://santastisch.wordpress.com>): インドネシアが中心となり、東南アジア・オセアニアの7か国が参加するオンラインドイツ語新聞、との間で、インドネシアのジャカルタにおいてドイツ語新聞ワークショップを共同開催した。その際に、現地において4校学校見学を行い、ドイツ語新聞・英語新聞を含めた学校新聞全体の制作状況について調査することができた。

2017年9月には、モンゴルで開催された東アジアのドイツ語教員ワークショップに参加し、韓国と中国の PASCH 校との間に共同プロジェクトを立ち上げた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

柴田育子「PASCH ビデオワークショップ 2015-2016(東京 - パンチェヴォ)参加報告」、『ドイツ語教育』、21号、2017年、91 - 96頁。

柴田育子「木更津高専とハインリヒ・ヘルツ・ベルーフスコレークとの協定と交流 ドイツ語の運用能力を有するグローバル・エンジニア育成プログラムの視程」、『高専ドイツ語教育』、第16号、2017年、24-37頁。

柴田育子「「2+1」の言語運用能力を有するエンジニアの育成を目指して PASCH 校としての木更津高専のドイツ語教育の展望」、『高専ドイツ語教育』、第16号、2017年、58-63頁。

柴田育子「ドイツ語新聞制作を通じた国際交流 - AKBP Forum 2016 in Berlin 参加あるいは Landeskunde として -」、『高等学校ドイツ語教育研究会会報』、第28号、2016年、70-81頁。

[学会発表](計9件)

柴田育子「IDT2017 in Fribourg/Freiburg 参加報告」、『高等学校ドイツ語教育研究会、東京ドイツ文化センター、東京都港区、2017年9月23日。

Radmila Nikolic, Ikuko Shibata: PASCH SERBIEN trifft PASCH JAPAN, PASCH JAPAN trifft PASCH SERBIEN, XIV. Internationale Tagung der Deutschlehrenden und Deutschlehrer, Fribourg, Schweiz, 3. August 2017.

柴田育子「ドイツ語を通じた国際交流の可能性 木更津高専とハインリヒ・ヘルツ・ベルーフスコレークとの協定と交流」、『高専ドイツ語教育研究会、第47回、東京ドイツ文化センター、東京都港区、2017年5月26日。

柴田育子「PASCH Serbien trifft PASCH Japan, PASCH Japan trifft PASCH Serbien - PASCH ビデオワークショップ 2015-2016(東京 - パンチェヴォ)」、『高等学校ドイツ語教育研究会』、東京ドイツ文化センター、東京都港区、2016年9月19日。

柴田育子・能登慶和・Katrin Endres「PASCH 校生によるドイツ語新聞 JAPAN HEUTE の制作 - 13号発行に至るまでの4年間の試み」、『日本独文学会春季研究発表会、獨協大学、埼玉県草加市、2016年5月28日。

柴田育子「セルビアと日本: エコロジーと環境 - PSCH ドイツ語ジャーナリズムキャンプ 2015-2016に参加して」、『高専ドイツ語教育研究会、第46回、東京ドイツ文化センター、東京都港区、2016年5月27日。

柴田育子・伊藤直子「授業外活動を利用した高専生のドイツ語表現力向上の取り組み」、『高専ドイツ語教育研究会、第45回、東京ドイツ文化センター、東京都港区、2015年5月29日。

柴田育子・須江康司・能登慶和・中山匡・丸山智子「PASCH 校におけるドイツ語教育 中等教育からのドイツ語学習」、『日本独文学会春季研究発表会、武蔵大学、東京都練馬区、2015年5月30日。

柴田育子「新聞制作を通じてドイツ語表現力を向上させる試み 「書く」ことを目的とした「話す」こと」、『日本独文学会秋季研究発表会、鹿児島大学、鹿児島県鹿児島市、2015年10月3日。

[図書](計 件)

[産業財産権]

○出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

JAPAN HEUTE の記事は下記の URL で公開されている。

PASCH-Global(<http://blog.pasch-net.de/pasch-global/>)

6．研究組織

(1)研究代表者

柴田 育子 (SHIBATA, IKUKO)

木更津工業高等専門学校・人文学系・教授

研究者番号：90300540